

響き渡った歌声と音色

11月12日(金)に、『第61回三泗中学校音楽会』が、四日市市文化会館にて開催されました。昨年度はコロナウイルス感染症の影響で開催されませんでした。今年度は、例年全日で開催しているものを半日で開催するなど、感染防止対策をしっかりと行った上で実施されました。本校からは、文化祭の合唱コンクールで最優秀賞となった3年1組と吹奏楽部が参加しました。3年1組は、小林心絵さんの指揮、川瀬史佳さんのピアノ伴奏に合わせて、『生きている証』を発表しました。クラスで気持ちを一つにした心のこもった合唱でした。



言葉を丁寧に発音し、とても印象的な歌い出しでした。ユニゾンも三声に分かれる部分もよく歌えており、そのコントラストが効果的でした。また、サビの部分が引き立つように歌っているのがよく伝わりました。最後までしっかりと歌い切ることができ、とても素晴らしい合唱でした。



吹奏楽部は音楽会の最後に出演し、「ウインドオーケストラのためのマインドスケープ」と、「君に会えたから」の2曲演奏しました。「マインドスケープ」は、コンクールの自由曲として取り組んできた曲で、3年生にとっては3年間の活動の最後を締めくくる立派な演奏でした。最後の曲はポップスで、アクションを加えて、会場全体を

明るく元気にしてくれる、生き生きとした演奏でした。他校の生徒たちも刺激を受けたようでした。

音楽会は発表するだけでなく、他校の演奏を聴くことにも意義があります。同じ曲を歌った学校もありましたから、自分たちとの表現方法の違いに気づいた生徒もいるでしょう。また、普段はなかなか交流のない学校の紹介や演奏を聴くことで、三泗(四日市市と三重郡)にも、様々な学校や文化があることを知ることができました。

内部中の生徒だけでなく、参加したすべての学校の生徒の行動や鑑賞マナーが良く、素敵な音楽会の一日となりました。



ICTを活用した学び

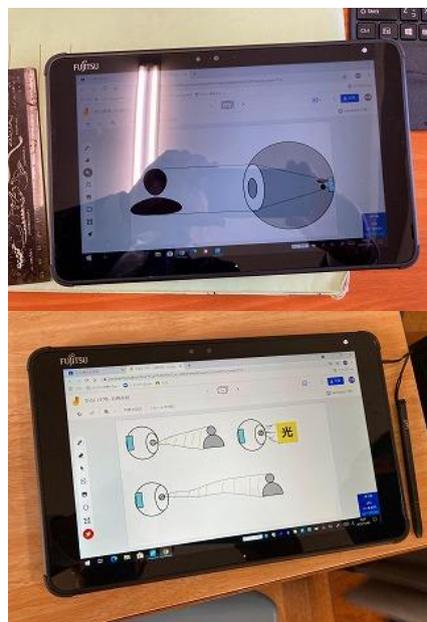
11月9日(火)の2限目に、1年5組の理科(荻野先生)の授業を参観しました

内容は『光による現象・凸レンズのはたらき』で、『めあて』は「なぜ近視が起こるのかを、図などを用いて説明しよう」でした。

生徒たちはタブレットを使って作図するなどして、その理由をあれこれと考えていました。感心したのは、その作図の出来映えと速さです。ご存じのように、今年度からす



べての生徒にタブレット端末が配付されています。「まず慣れることからはじめよう」を目標として取り組んでいますが、生徒たちの活用力・操作力の進捗状況には目を見張るものがあります。



左のような複雑な図を、すらすらと書いていく生徒たちを目の当たりにして、その順応力には感心するばかりでした。

生徒たちは自分の作図をもとに、周りの仲間と対話しながら学びを深め、『めあて』を主体的に探究していました。

タブレットは、9月に実施したオンライン学習でも有用でしたが、そのことが一番の目的ではなく、日常の学習の中で一つのツール(道具・教材)として、当たり前を活用していくことが重要です。教職員も日々、研修等で学習への効果的な活用について学んでいます。生徒たちに置いていかれないよう、OJT等で、知識やスキルを高めていきます。

最終的には、学習の場面や状況に応じて、どのツールを選択するかを、子どもに委ねていけるようにしていきたいです。

自分や他者の安全を守るために part 2

15日(月)に、市民センターの川崎館長、連合自治会の諸戸会長等に来校していただき、『内部地区通学路検討委員会』を開催しました。みなさんが通学する道路等を安全なものとするため、横断歩道の塗り直しやバリアードの設置等、行政に要望する内容について検討しました。

地域の様々な大人が、みなさんを守ってくださっていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。しかし基本的には、自分や他者の安全を守るためには、自らが意識して行動することが大前提となります。『交差点では必ず止まる』『信号は安全な場所で待つ』『スピードを出し過ぎない』『並列走行等の他者に迷惑になることはしない』等を、日常的に意識し、安全に留意してください。

駅伝県大会に向けて

21日(日)に四日市市中央陸上競技場にて開催される、『三重県中学校駅伝競走大会』に向けて、選手の生徒たちはテスト期間も毎日練習を続けています。当日は無観客での開催となりますので、みなさんは応援に行けませんが、心の中で精一杯の応援をしてあげてください。